

授業概要

双子・分身・多重人格にかかわる文学研究

英米の小説の傑作を翻訳などを使い「読み」、分析し、理解する。また、それに関係するテーマの映画なども併せて議論してゆく。活字離れが進む現代、視聴覚教材を活用し、「読む」という行為と概念をさらに拡大した新たな授業を行いたい。読むということは何も活字だけを読むことには、限らない。視覚的なイメージを解読するということも、また「読む」という行為である。

授業計画

第1回	導入—双子・分身・多重人格の文化史
第2回	エドガー・アラン・ポー論——『推理作家ポー』を読む
第3回	ポー「モルグ街の殺人」を読む——分身としての猿
第4回	ポー「ウィリアム・ウィルソン」を読む——古典的分身物語論
第5回	スティーヴンソン『シキル博士とハイド氏』を読む——世紀末文化と分身論
第6回	自分の知らない自分——無意識の発見・フロイト・ヒステリー
第7回	推理小説と多重人格（1）——シャーロック・ホームズを読む
第8回	推理小説と多重人格（2）——モリアーティとホームズ
第9回	推理小説と多重人格（2）——映像のなかのシャーロック・ホームズ
第10回	スティーヴン・キングの分身小説——『ダーク・ハーフ』『秘密の窓、秘密の庭』を読む
第11回	シャム双生児とは何か——『運命の双子』から映画のなかのシャム双生児
第12回	多重人格とノン・フィクション——ダニエル・キイス『24人のビリー・ミリガン』を読む
第13回	現代における多重人格——解離性障害を追う
第14回	現代における自分探し——本当の自分とは存在するか
第15回	現代における分身——『ゲド戦記』とイスラム国
第16回	まとめ ディベートなど

到達目標

多くの小説の名場面に触れることで、活字の世界への関心がわき、国語力アップにもなることを目指す。

履修上の注意

言うまでもなく授業中の私語、睡眠は許されない。マナーを尊重して楽しい授業にしたいので、積極的な参加を望みたい。大量の資料を配布するのでファイルを持参のこと。配布した資料にはかならず目を通してもらいたい。

予習復習

配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再び読み直してほしい。

評価方法

学期末レポート（60％）と授業中の提出物およびコメントペーパー（40％）などの総合評価

テキスト

主にプリントなどの資料配による